

建設業で取り組む新しい働き方

できることを示して意識を変えていく



代表取締役社長
村岡 洋平 さん

家族の介護で入社困難な社員に、在宅で業務ができる環境を整備。対象者は周囲からの信頼が厚い経験豊富な社員で、トップダウンで職場に説明していたこともあり、すんなりと在宅勤務が受け入れられました。会社を休まなくても勤務が続けられる成功事例となりました。

また、現場監督の働き方の見直しも実施。通常、一人で複数の現場を担当しているため、移動負担が大きくなっています。そこで、現場に行かなくても、外部から作業人数や進捗状況を確認する実証実験を行いました。

各現場は現地の撮影データをインターネット上にアップ。現場監督は自宅や事務所、外出先などから、スマートフォンやパソコンで画像を閲覧し、状況を把握します。将来的には画像認証で自動的に人数を把握することも検討しています。やってみて、できることを示して、意識を変えたいと考えています。

介護をしながら会社を休まず業務継続



設計士
菊地 一人 さん

高齢の親の介護をしながらの、テレワークに取り組みました。会社支給のパソコンとスマートフォンを利用し、自宅に居住空間とは異なる作業スペースを設けて、業務を行いました。

図面を送る必要がある場合は、自宅FAXも使用。スケジュールはクラウドで事務所の担当者と共有し、作業内容の確認や、依頼を受けての図面チェックなどを進めました。

在宅勤務を行う場合は、事前に上司にメールで申請し、許可を得ます。業務時間は、業務日報で上司に報告しました。

実際にテレワークを行ってみたところ、会社で仕事をしなければならないという固定観念が取り払われました。介護をしながら、会社を休まずに仕事を続けられるという希望が持っています。

片道1時間かかる通勤時間を別の作業などにあてられますし、仕事の時間を調整して、介護や外出などの外せない用事を日中にすませることもできました。